

海を越えてつながった「家族」

亀井清司さん一家（長瀬二区）と アシユリー&アンドリユー・ミックブライド

おかえりと聞こえる場所へ

「ただいま！」秋晴れの9月2日、長瀬に住む亀井清司さん一家のお宅に、1人の女性が帰ってきた。「毛呂山の落ち着いた雰囲気が大好き」という彼女の名前は、アシユリー・ミックブライド。オーストラリアのキャンベラに住み、現在はオーストラリア国防省に勤めている。

三度目の正直

亀井さんとアシユリーが初めて出会ったのは、15年前。亀井さんが、当時高校2年生だった長女・千愛



亀井さん一家とアシユリー（前列右から2人目）

さんのクラスに、留学生としてやってきたアシユリーを受入れるホストファミリーになったことがきっかけだった。妻・規子さんは、「ああ、どうぞ！という感じでした。実家で留学生を受け入れた経験もありましたし、アシユリーは日本語も話せたので、抵抗なく受け入れました。それが縁でずっと関係が続いて、もう15年になりますね」と話してくれました。一方のアシユリーは、「来る前は、どんなホームステイ先にめぐりあえるか心配でした。お互いの気持ちに通じ合うかどうか。でも、亀井さんとは気が合いましたね！」と笑顔で語る。

アシユリーが日本でホームステイをしたのは、亀井さんのお宅で3回目。英語では「Third Time Lucky（三度目の正直）」。3度目に「幸福がありました」と満面の笑顔で話す。

感謝の心で

小さい頃から大家族に憧れていたアシユリー。兄弟3人とおばあちゃんもいる亀井さん一家との毎日がとても楽しく、ここに来ることを「里帰り」と呼んでいる。

「食事は何でも食べてくれるから、梅干や納豆など何でも出しました。遊びに行くのでさえも、特別な所には行っていないんですよ」と規子さん。そんな、実の娘と同じような接し方に、アシユリーも「私を家族の一員として見てくれる。だから、義理で生活スタイルを変えてもらうのは嫌なんです。亀井さんには感謝の気持ちでいっぱいです。今のまま一生お付き合いできれば嬉しいです」と語ってくれた。

家族ぐるみの付き合い

8か月間の留学を終えてからも、亀井さんとアシユリーとの国際交流は続いた。千愛さんの成人式や、亀井さん夫妻の孫の朝陽君が生まれた日も、亀井さんはアシユリーと喜びを分かち合った。そして、オーストラリア帰国後に、アシユリーは、就職先の国防省で出会った夫・アンドリユーと結婚。キャンベラでの結婚式にはもちろん亀井さん一家も招かれた。

結婚式では、アシユリーの父親、アンドリユーの父親に続いて、清司さんも英語でスピーチをした。「見ているほうがドキドキした」と話す規子さんに、アシユリーは、「お父さんのスピーチは完璧で、心配する必要がなかったですよ。でも、感動して泣いてしまいました」と照れながら話す。「近親者だけの式で、ア

シユリーやアンドリユーの家族と一緒にハワイアンダンスを踊りました。仲間に入れてもらって嬉しかった」と話す規子さんの後ろには、結婚式の写真が大切に飾られていた。

世代を超えた家族交流

いま、アシユリーのおなかには新しい命が宿っている。次回の「里帰り」までの間、メールや電話で亀井さんと交流を続け、ブログで子どもの成長を伝えたいという。「アンドリユーは日本語がチンプンカンプン。でも、子どもには日本語を教えて、朝陽君と一緒に遊ばせたいと言っているんですよ」とアシユリーは話す。チンプンカンプンという言葉は、朝陽君がアンドリユーに教えたもの。

「迎え入れようとして構えてしまうと、長続きしない。自然体が一番です」と規子さんは語る。海を越えてつながった家族の国際交流は、世代を超え、今後ますます深まっていきそうだ。



アシユリー（右）とアンドリユー